

International Auto Aftermarket EXPO

国際オートアフターマーケット EXPO 2006

自動車アフターマーケット業界唯一の国際展である「国際オートアフターマーケットEXPO 2006」が去る3月10日(金)～12日(日)の3日間、千葉市の幕張メッセ(日本コンベンションセンター)において開催された。

日本初の国際的なオートアフターマーケットの専門トレードショーとして開催されてきた見本市も今回で第5回を迎え、補修部品/用品をはじめ、業態変革を促す事業提案まで幅広い出展内容の見本市となった。

今回、会場内には「次世代の自動車整備コーナ

次世代の整備を実感できる故障診断システム実演コーナー



ー」として故障診断システムの実演スペースが設けられ、自動車整備事業者にとって外部診断機の必要性を実感できるコーナーとなっていた。

新型の外部診断機では、大型カラー液晶を採用することによる視認性の良さ、インターネットによるソフト配信、USBを使ったパソコンとの連動、オプションで排気ガス測定とオシロスコープ機能が用意されるなど多機能化されており、高度で広範囲な故障診断が可能になる新時代の外部診断機として脚光を浴びていた。



新型の外部診断機(左)
HDM-3000(日立モバイル)



新軽板金の実演(日立モバイル)



⑥内装リペアカスタムを施したシート (オートテック パンパー)



⑦改良型ETC車載器テスター(デンソー)

13カ国・地域から 244社が出展

他にも、内外装リペア新システムとして、バンパーの擦り傷を80分で修正してしまう軽板金システムや、革製シートのシワ・擦れ・はげ・色落ちが特殊溶剤をエアで吹くだけで簡単に補修できるシステムが提案されており、手間が少なくても美しい仕上がりを見せる技術の進歩に驚きを感じた。

ETC関連では、改良型のETC車載器テスターが出展されていた。これは、「最近の車載器は、路車間通信を安定させるために変調度を深めていることから、改良前のテスターでは送信電力が弱く測定され、実際のゲートで通信できる能力があるか判定できないため、改良したテスターが必要になる」とのことであった。

また、4月1日から放送が開始されたワンセグ(移動体向け地上デジタル放送)に対応したチューナーが出展されており、アナログ放送では受信が厳しい状況でもワンセグ放送では安定した画像



が表示されていた。ワンセグ放送では新幹線の速度でも映像・音声とも安定した受信ができるため、車載テレビ等で効果を発揮するであろう。この車載チューナーは今年の6月から発売する予定だそう。



ワンセグ放送と現行放送を比較したパネル(HARADA)

その他多種多様な出展物があったが、全体的に見ると自動車整備事業者が新規事業を進めるのに良い時代が到来したと感じられるショーであった。これらの新商品を導入するには、短期間の講習を受け、システム化されたワークフローをこなせば実際の業務が進めら

れる等、導入のハードルがかなり低くなっている。早い、安い、上手いで顧客に感動を与えられるメニューの追加は、リピーター率向上の一つの手段かもしれない。



撥水性能もここまでG'ZOX (SOFT99)



サンディングの粉を95%以上集塵できる集塵機(テクノツールズ)



センターピラーにもグラフィック(美装)